



おらほーるだより

移動講座を開催しました

6月15日(木) 荷軽部地区、9月7日(木) 来内地区、10月4日(水) 小国地区、25日(水) 日野沢地区の各公民館にて移動講座を開催しました。久慈市体育協会の久慈さん他から指導していただき、「ボッチャ」・「卓球バレー」を体験しました。



女性講座を開催しました

10月13日(金) 山形市民センターにて女性講座「干支のちぎり絵」を開催しました。三河のり子さんを講師にお招きし、丁寧な説明と指導をして頂き完成させた作品は、山形地区総合文化祭にて展示させていただきました。

ご来場ありがとうございました 山形地区総合文化祭

令和5年10月21日、22日の両日にわたり開催されました山形地区総合文化祭に多数のご来場をいただき誠にありがとうございました。

21日には山形中学校文化祭舞台発表、22日は白樺の郷まつりの同時に開催され、それぞれたくさんの方で賑わいました。出展・出演等いただいた皆さま、おかげさまで持ちまして文化祭を無事開催することができました。この場を借りて御礼申し上げます。来年も引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

「久慈市民おらほーる劇場」第15回公演

作 品	「まめぶ姫と八 <small>はちわんこく</small> 椀国の明日」
期 日	11月25日(土) 18時開演 (開場 17時30分) 11月26日(日) 14時開演 (開場 13時30分)
会 場	おらほーる
料 金	一 般：前売り 800円 (当日 1,000円) 高校生以下：前売り 400円 (当日 500円)
プレイガイド	アンバーホール、リカーフーズきちや ふるさと物産センター、へろまち産直館
問 合 せ	山形教育室 ☎72-3711 (チケットの電話予約も受け付けます) ※11月26日(日)は、まめぶ汁のお振舞いもあります!



やまがた総合支所だより

ぐれっと！やまがた通信



山形総合支所からの
情報をお届けします

平庭闘牛大会もみじ場所 & 平庭市大感謝祭開催

10月16日(日)に平庭闘牛場にて、岩手めんこいテレビ杯平庭闘牛大会「もみじ場所」を開催いたしました。途中雨が降る中でしたが会場には県内外から約1,200人の観客が来場。40周年記念特別出演として「山中ソーラン」を披露していただき、また、包括連携協定を締結している「実践女子大学」の学生によるオリジナル商品のPR販売で、会場を盛り上げてくれました。

取組みは2才から9才の横綱までの14組が行われ、大関・横綱の白熱した闘いには歓声が起こりました。岩手めんこいテレビ杯最高殊勲牛には、プレステック株式会社所有「牛神 Jr」が選ばれました。

平庭中継基地駐車場にて、「平庭市大感謝祭」が同日開催されました。屋台村では地元の特産品販売などが行われ、特設ステージでは盛岡音楽事務所による歌謡ステージや内田かおるさんと泉ヒデ子さんによる歌謡ショーが行われ会場をにぎわせました。



「ぐれっと！やまがた街道祭」を開催しました

10月1日(日)、山形町内全域15か所を会場として「ぐれっと！やまがた街道祭」を開催し、多い会場では800人以上の来場がありました。

各会場ではそれぞれ工夫を凝らした催しや会場づくりが行われ、地域の特産品や旬の食材などが並びました。目当ての商品に並ぶ人々や、暑い日が長く続いてようやく収穫できるようになってきたマツタケを買い求める人、「これを食べようと思って来た」と笑顔でまめぶを注文する人、家族を代表して楽しそうに参加賞の抽選機を回す子どもの姿が見られるなど、各会場で大きな賑わいを見せていました。

なお、短角牛肉・ハンバーグのセットが当たるお楽しみ抽選には365名の応募があり、当選者には10月上旬に賞品を発送いたしました。

【お楽しみ抽選当選者内訳：山形町5名、久慈市9名、県内4名、県外2名】





かわいい児童館ハロウィン訪問



10月31日(木) かわいい児童館園児4名が、可愛い衣装をまとい山形総合支所にハロウィン訪問しました。園児たちは、スタンプラリーや釣りゲーム等を楽しみ、お菓子をもらって笑顔を見せていました。

なお、児童館では、随時、入園児を募集しております。詳細は、【山形福祉室 72-2143】までお問い合わせください。



どこへ行っても

岩手県 久慈市立山形中学校 三年

下館 春稀

「ヨシター！」一トンもある牛の綱を力強く引く勢子の掛け声。「いいぞー!」「頑張れ、頑張れ」「そらいけー!」会場からは、大きな歓声と拍手が沸き起こる。牛は目を充血させてにらみ合い、どろを跳ね上げながら、激しく角をぶつけ合わせる。いつもは静かな地域もこの日ばかりは、熱気であふれかえる。

私の住んでいる地域で行われている平庭闘牛は、昭和58年から東北唯一の闘牛として、始まり、迫力満点の牛の闘いを間近で見られるということで、この日は大きなにぎわいを見せます。

しかし、大きな盛り上がりを見せるのは、この祭りが開催される日の年に4日。大輪の花火が夜空をパツと鮮やかに照らし終わったあと、静かに消えてゆくように、私の地域からも祭りが終わるとそのにぎわいは寂しく、散っていきます。

私の住む山形町は、いわゆる過疎地と呼ばれる地域です。私の通っている山形中学校も二年後に入学する新入生はわずか四名という状況です。人がいなくなると、町からは明かりが一つまた一つと消えていき、明るい光を求めてますます人がいなくなってしまう。きっと多くの地方が抱えている問題ではないでしょうか。その状況に歯止めをかけようと、山形町

の方々には様々な取り組みを行っています。闘牛祭りをはじめ、伝統食であるまめぶの普及活動、しらかば植樹……。山形町の豊かな自然や町の魅力を多くの人に知ってもらおうと、大切に伝えていきます。私も山形について調べていくうちに、故郷の自然や伝統の素晴らしさを改めて感じる事ができました。それと同時に、もうひとつ大切なことに気付きました。それは、そこで暮らす人の故郷に対する思いです。総合的な学習の時間の中で、これからの山形について考える「山形ビジョン」という取り組みを行いました。その中で一つのアンケート結果を見たとき、私はなんだか胸が温かくなりました。「山形町に住み続けたい」「いずれ山形に戻ってきたい」と答えた人が実に半数以上。また、地域学で闘牛大会を盛り上げる勢子さんからお話を伺ったときも、「やはり若い人たちに頑張ってもらいたい」「生産者を支えるためにも、文化をこれからも継いでほしい」と話していました。

これから先も人口が減り、もっと過疎化が進むかもしれません。日々、世の中は変化し続けます。2006年に山形村が久慈市山形町に変わったように、自分が生まれ育った故郷の名前も変わったり、なくなったりすることもあるかもしれません。けれど、私のふるさとが変わることはありません。暑さに負けず、虫取り綱をもって冒険した白樺林。真っ白な雪原で、元気にそり遊びをした平庭の山。学校が終わり、バスから降りると、「おかえり。」と、畑仕事を

しながら温かく迎えてくれる近所のおばあちゃん。

そんな思い出や、そこで出会った多くの人の温かい想いが溢れている場所こそが、ふるさとだと思います。ふるさとを離れても、それはふるさとを捨てることではありません。どこにいても何年たっても、その想いを心の深いところに大切にしまっていること。それこそが、ふるさとを守ることに繋がるのだと思います。

地域の方々、これからも、私たちを守り育ててください。そしてもっとふるさとについて教えてください。私たちは、きっとその想いを繋ぎ、広げていきます。

そして、中学生の皆さん、次は私達の番です。私達中学生はまだ、十数年しか、その地で生きていません。しかし、「自分のふるさととはここだ。」と胸を張って言えるように、地域を知り、人の温かさに触れ、ふるさとに想いを寄せること。それが、今を、そしてこれから生きていく私達ができることです。将来、どこにいても、私の大好きなふるさととはここにあります。

